

帯広市強靱化計画 第2回有識者懇談会 議事概要

日 時／令和2年10月19日(金)10:00～11:00

場 所／ソネビル 6階 講習会室

出席者

【委員】

| 所 属 | 役 職 | 氏 名 |
|----------------|-----|----------|
| 国立大学法人帯広畜産大学 | 教 授 | 辻 修 (座長) |
| 帯広商工会議所地域開発委員会 | 委員長 | 柴田 隆視 |
| 帯広建設業協会災害対策委員会 | 委員長 | 植村 高愛 |
| 帯広市社会福祉協議会 | 会 長 | 畑中 三岐子 |
| 帯広市町内会連合会 | 会 長 | 高宮 裕 |

【事務局】

| 所 属 | 職 位 | 氏 名 |
|------------------|------|-------|
| 帯広市総務部 | 部 長 | 廣瀬 智 |
| 帯広市総務部危機対策室 | 室 長 | 石田 智之 |
| 帯広市総務部危機対策室危機対策課 | 課 長 | 岡田 剛 |
| | 課長補佐 | 佐藤 真樹 |
| | 係 長 | 高田 敦史 |

■配布資料：第1回有識者懇談会での意見について

関連計画、推進事業一覧

帯広市強靱化計画(原案作成に向けた検討資料)

帯広市強靱化計画 原案の構成案

今後のスケジュール

1. 開会

- ・事務局より開会宣言
- ・第1回有識者懇談会以降の経過と第1回有識者懇談会において出された意見への考え方について報告

2. 事務連絡

全5名の出席と配布資料、議事内容について報告

3. 議事概要

座 長

- ・議題1、帯広市強靱化計画 原案作成について、事務局から説明を。

事務局

- ・資料5「帯広市強靱化計画(原案作成に向けた検討資料)」に沿って、第1章から第4章まで、各章ごとに説明させていただくので、各章ごとに意見を伺いたい。

＜第1章について＞

- ・帯広市強靱化計画の第1章は、計画の策定趣旨や位置付け、計画期間、地域防災計画との関係について記載している。
- ・策定趣旨については、国や北海道の策定経緯や、帯広市におけるこれまでの災害発生状況に触れ、防災・減災の観点から、現行の施策をとりまとめ、より効果的な防災・減災対策に取り組み、災害から市民の生命と財産を守り、被害を最小限にして速やかに回復する地域社会の実現につなげていくことを示している。
- ・計画の位置付けについては、国の基本計画、北海道の強靱化計画と調和のとれた計画とするとともに、帯広市の総合計画と整合を図り、強靱化計画に関連する他の様々な分野計画と連携しながら推進していく計画であることを示している。
- ・計画期間については、2021（令和3）年度から2025（令和7）年度までの5年間としている。
- ・地域防災計画との関係について、「帯広市地域防災計画」は地震や水害など、災害の種類ごとに行うべき業務等を定めたもので、災害対策を実施する上での予防や、災害発生時及び発生後の対策などに視点を置いた計画であり、国土強靱化の地域計画は、地域で想定される様々な自然災害について「災害が発生する前からの平時からの備えを中心に、施策を取りまとめた計画であることを示しており、地域防災計画と国土強靱化地域計画は密接な関係を持ちつつ、それぞれが自然災害の発生前後において必要とされる対応について定めるものとなっている。

座 長

- ・第1章について、質問・意見は。

委 員

- ・（特に無し）

座 長

- ・第2章の説明を。

＜第2章について＞

事務局

- ・第2章は帯広市強靱化計画の考え方について、計画の目標や計画対象として想定されるリスクについて記載している。
- ・計画の目標は、国や北海道の計画を踏まえて、大規模な自然災害から市民の生命・財産を守ることを第1に掲げ、災害に強い地域社会・地域経済の実現と迅速な復旧・復興体制の確立を図ることにより、国・北海道全体の強靱化につなげていくことを目標としている。
- ・計画の対象とするリスクは、過去に帯広市で発生した地震や豪雨、豪雪などの大規模自然災害のほか、首都直下地震や南海トラフ地震など市外の大規模自然災害についても、対応すべ

きリスクとして想定する。

座 長

- ・第2章、これまでの災害を踏まえた強靱化計画の考え方が、質問・意見は。

委 員

(特になし)

座 長

- ・第3章の説明を。

<第3章について>

事務局

- ・第3章は、脆弱性評価及び強靱化のための施策プログラムについて記載している。
- ・脆弱性評価は、国や北海道の計画を基に「起きてはならない最悪の事態」としてリスクシナリオを設定し、19のリスクシナリオごとに、関連する現行の施策の現状や課題を整理し、最悪の事態の回避に向けた現行施策の対応力について評価・分析を行った。
- ・施策プログラムは、脆弱性評価の結果を踏まえ、リスクシナリオを回避するために、帯広市の強靱化の取り組み方針として設定した。施設整備等のハード対策のみではなく、訓練や防災教育などのソフト対策を組み合わせ、本市が主体となっていく事業を推進事業として設定し、取りまとめた。推進事業については、計画期間中であっても、状況の変化等に対応するため、必要に応じて見直しや新たな設定を行うこととした。
- ・10ページから11ページに施策プログラムを一覧にして記載した。リスクシナリオを7つのカテゴリと19の項目に区分して、施策プログラムを設定している。
- ・12ページから、リスクシナリオごとの脆弱性評価と施策プログラムを記載している。まず、「人命の保護」に関わるカテゴリに地震等による建築物等の大規模倒壊や積雪寒冷時の避難体制等の未整備、情報収集・伝達の不備・途絶など6つのリスクシナリオを設定し、建築物等の耐震化や避難所等の対策、連絡体制の整備などの施策プログラムを記載した。
- ・「救助・救急活動等の迅速な実施」に関わるカテゴリに、食料など生命に関わる物資等の供給の長期停止や、保健・医療・福祉機能等の麻痺など3つのリスクシナリオを設定し、非常用物資の備蓄促進や感染症対策などの施策プログラムを記載した。
- ・「行政機能の確保」に関わるカテゴリには、行政機能の大幅な低下をリスクシナリオとして設定し、本部機能の強化や他の自治体との応援体制の整備などの施策プログラムを記載した。
- ・「ライフラインの確保」に関わるカテゴリには、長期的なエネルギー供給の停止や上下水道の長期間にわたる機能停止など4つのリスクシナリオを設定し、多様なエネルギー資源の活用や上下水道施設等の防災機能の強化などの施策プログラムを設定した。

- ・「経済活動の機能維持」に関わるカテゴリには、長期的な企業活動等の停滞や物流機能等の大幅な低下をリスクシナリオとして設定し、事業継続体制の強化や陸路における流通機能の強化などの施策プログラムを設定した。
- ・「二次災害の抑制」に関わるカテゴリには、農地等の被害による国土の荒廃をリスクシナリオとして設定し、農地等の整備・保全管理などの施策プログラムを設定した。
- ・「迅速な復旧・復興等」に関わるカテゴリには、災害廃棄物等の処理の停滞や復旧・復興を担う人材の不足などをリスクシナリオとして設定し、災害廃棄物処理計画の策定や建設業との連携などの施策プログラムを設定した。

座長

- ・第3章は膨大な量があり、各専門の方の意見が必要かと思われるが、皆さんから何か。
- ・座長から全体的な話で。施策プログラム一覧のカテゴリの分け方は一般的な強靱化や災害に向けたものと思うが、例えば帯広市強靱化計画が各課を横断的に網羅したものであれば、災害別に分けた場合はどうなるのか。
- ・例えば地震災害については、「人命の確保や救助はこういうシナリオで行く」、「洪水ならこうシナリオで」とか、帯広市の災害を想定した場合に起こり得る危険度の高いものから評価するとか。今のものは今のものでいいと思うが、災害が起こった時の体制というか、横に網羅したものもあってもいいのかと若干思った。
- ・皆さんに（座長から）資料を渡したが、自分の専門のGIS（地理情報システム）のもので神奈川県藤沢市のもの。藤沢市はGISマップでは日本で最も取り組んでおり、災害に関してもマップで可視化して情報が公開されている。
- ・帯広市も水道とか下水道にはGISが入っている、都市計画の方でも一部入っているが、全体的に一元化されてあるかという点が残念ながらそうではない。
- ・菅総理大臣になって、日本デジタル化推進と言われているので、強靱化計画の中にも、帯広市としてデジタル化して災害を可視化し、強靱化に結び付けるとかというものが強靱化計画の中にあってもいいと思う。
- ・1回目の有識者懇談会の時も言ったが、特に北海道は広いのでなかなか地域のものが目に見えてこない。農村と都市部を結ぶとか、帯広ではスマート農業で5Gをいかに取り入れるかということが産業的にはあると思うので、それを視野に入れたデジタル化政策というのが、災害では一番役に立つ。
- ・「協定を締結する」ということは強靱化計画に入っているが、もう少し突っ込んだ整理ができないのか、せつかく強靱化計画を出すのであれば、一歩進んだものを出してはどうかと思う。
- ・藤沢市のマップは、日ごろから（藤沢市のHPの）「まちづくり情報」というところで、土砂

災害警戒区域だとかを大縮尺から小縮尺まで見られる。自分たちの地域がどういう状況なのか見える。避難経路としてもこういう GIS マップがあると、どの橋が通れるとか、交通情報もやろうと思えばできる。災害には情報はキーワードの 1 つ。何かいいものがないかなと思った。揺れやすさマップも、拡大縮小自由。

- ・これくらい整備するとなるとお金もかかると思うが、強靱化計画で今後帯広市が検討していくのであればこういうものも入れてあげればいいと思う。これは意見で、今すぐということはないが、こういうものを一言入れていけば今後の予算要求とか帯広市として産業界とタイアップしていけることが考えていけるのかと思う。

委員

- ・第一回の懇談会の時に、感染症対策をした避難などについて話したが、市職員を対象にした避難訓練を実施しているとのことと本当にありがたいことだと思う。どんどん広がってほしい。
- ・10 ページの「人命の保護」で、「1-6-4 外国人、観光客、高齢者等の要配慮者対策」とあるが、本文の 24 ページの部分には「障害者」という言葉も書いてあるものの、項目名では「障害者」という言葉が無いので、出来れば帯広市は障害者にも配慮しているということで書き加えていただくとありがたい。

事務局

- ・項目名については整理する。

委員

- ・全体的に、出来るだけ数値化できるといいと思う。例えば 13 ページの公共建築物の老朽化対策の部分で、施設の 5 割くらい老朽化が進んでいるということだが、現状どのくらいで、今後どういう風にしていくか、もしそれが数値化できるならその方が分かりやすいと思うが、提案させてもらう。

事務局

- ・それぞれの項目ごとに関連計画を示しているが、それぞれの計画の中で目指すべき数値などが示されている。この計画の推進状況等の確認に当たっては、各課に照会をかける際にそれぞれで持っている関連計画の推進を併せて確認していく中で強靱化計画の推進状況を確認していきたいと思っており、それぞれの数値については関連計画の中で数値目標をもって進めていく形。

座長

- ・委員が言うのは、具体のプランの中では数値化は当然やらないといけませんが、こういう大きなところでなるべく数値化して見えて、市民が見た時に分かるようにしてほしいということか。

委員

そう。盛り込めるものなら盛り込んでもらいたい。

座長

- ・例えば30年以上が経過した施設が全体の5割を占め、これを何年度くらいにこういう風にやります という程度でいいか。帯広市がこういう風にやりたいという意思を数値として見せてほしいということで、ほかの部分では数値化しているところもあるので検討していただけるか。

事務局

- ・分かりました。

座長

- ・全体的には網羅されているが何か玉虫色。「いつまでにこうやる」とか、各課を網羅しているのでなかなか見えないと思うが、見えるところは見せてもらいたい、市民からみてもそれが見えないと同じではないかということ。

委員

- ・本当に網羅されてよく考えたプログラムだと思うが、座長が言うように、これをいつになったら具現化するとか、災害でどれとどれがつながっているとか、連携がちょっと見えてこないのが残念。
- ・計画を策定してもただ棚の上に置いておくだけというのでは駄目。推進期間が5年間あるので実行してもらわないといけない。これを全部実行するのは5年間では無理だと思うが、いずれにしても5年間でどれだけこれに近づけるかというのが最大の目標かと思う。

事務局

- ・それぞれ分野計画があり、それぞれの担当課で行っている事業を強靱化計画として防災・減災の観点で取りまとめたというのは、防災・減災の観点からも各担当課の事業をしっかりと進めていくため。記載した事業はしっかりと実施状況等を来年度以降確認しながら推進させていくための計画としていきたい。

委員

- ・行政は縦割りということがよくある。我々が役所にいっても「たらい回し」にされることが往々にしてあるがこれも同じだと思う。自分らの持ち分ばかり強調すると横にはつながっていかないし、スムーズにかす時間がかかったりすると思うので、帯広市もそういう部分を少しずつ考えていく時期ではないか。

委員

- ・よくできていると思う。今流れている川ではなくて旧河川が氾濫することが非常に多く、そういうところで被害が多く出ているとマスコミで言われている。帯広市でも旧河川があるが、川を切り替えたとか新しく流れを変えたとかいうところで、水は低いところに流れていくので、座長に示していただいた地図あたりに旧河川などを入れることで住民が気を付けるのではないか。

座長

- ・特に水害については水に関してのマップ作り。プラスすれば橋の高さや川のあふれ具合だとか可視化できると、その地区の住民が避難所にどういうルートを通っていけばいいか、洪水の流量によって何時までに行けばいいかなどが分かる。
- ・シミュレーションの世界では結構されているが、そのためには基本のマップがなければできない。う回路をどう作るか。橋がここにあるけど、その橋を補正するのではなくて新たなルートを作るとか、そういうことを含めて考えればいいのかと思う。
- ・今まではそういうところにお金はつかなかったが、防災・減災、強靱化というキーワードでやるとそういうことをやらなければいけない。マイナンバーカードで国民のデジタル化が進めば障害者情報も表に出さないで行政サイドでそういう方をどうやって補助しながら安心して避難所まで連れていけるかなど、実はデジタルの世界でやると割とうまくいく。
- ・デジタルという今のキーワードをうまく捉えて、帯広市の中で減災、強靱化に結び付けてやっていくといい案ができるのかなと若干思っていた。何か工夫できないか。

事務局

- ・国などにより浸水区域が見直されてハザードマップを作成したが、今言われているところまでは正直いっていない。今後の参考にさせていただきたい。

委員

- ・町内会連合会は毎年、防災リーダー研修会をやっていて、災害が起きた場合にこういうところを通して避難所に行くという図上訓練をやっている。心配なのは、町内会に入っていない人。帯広市として避難所への行き方などを伝えることも大事かと思う。

座長

- ・今の意見をその中にも盛り込めると思うので、各委員からの意見を盛り込んでいただければ。他に何か。

委員

(特になし)

座長

- ・第3章を終わり、第4章の説明を。

事務局

- ・第4章には計画の着実な推進について記載している。来年度以降、各施策プログラムの実施状況等の評価・検証を行い、取り組み内容の改善を図ることなどにより、施策の推進につなげていくことと、社会情勢の大きな変化や大規模な自然災害が発生した場合などに想定されるリスクが変化した場合などは、必要に応じて計画の見直しを行うことを記載している。

座長

- ・皆さんから意見は。

委員

(特になし)

座長

- ・私から言わせてもらえば、計画の推進方法のところに「計画の着実な推進」と書いてあるだけ。具体的に推進のところで、例えば洪水対策の考え方とか、各災害に振り分けたらこういうことが重点とか、何かエッセンスを引き抜いたようなものがあればいいのかなと思う。推進方法で最後の結論が「これか」というのはちょっと悲しい。
- ・「見える化」とかマッピング化だとか、個別に帯広市として最重要にしていくとか見えてもいいのかなと。そうすると縦割りでなく横割りに網羅した推進の仕方が見えるのかという気もした。推進方法を若干加筆してもいいと思うが皆さんいかがか。ここに帯広市のオリジナリティが出て、今後帯広市としてはこういうことをやっていくというようなことが出てくると思う。
- ・事務局としては全体に、横並びに積み上げていってということだと思うが、一点豪華主義で行けば、何か「これをやりたい」というものはあるか。

事務局

- ・10、11 ページの施策プログラムの一覧に様々なリスクを記載しているが、座長がおっしゃるように、全て横並びとは捉えてはなく、人命の保護に力を入れていかなければならないと思っており、「1 人命の保護」を一番の項目として多く設定している。市民の生命を守ることには力を入れていきたいと考えている。この中のプログラムについて、本日いただいた意見などを踏まえて整理していきたい。

座長

- ・「庁内の所管部局を中心に各施策プログラムの実施状況等を評価・検証し」となっていますが、主役は誰。市役所の行政改革なのか。市民の命が大事であるとすれば、主語は市民では。強靱化計画をそもそも作るのは市民の人命を守るためというようなことがあって、それを着実に進めるために庁内の総和をとってという風にならないのかと思う。

委員

- ・評価も検証も庁内だけで行われたら「シャンシャンシャン」で終わってしまう可能性も無きにしも非ず。外部団体などにも検証してもらう必要があるのでは。
- ・毎年やるのか5年後にやるのかは分からないし、その間に災害があるとまた変わってくるとは思うが、何もなければ最後の5年後の検証は必要になると思っている。それも庁内だけでなく、こういう場でもいいとも思う。
- ・この場だけでどれだけ周知されるかというのものもある。その辺りは考えていただきたい。スパンは1年でも2年でも5年でも構わないが、どれだけ進んだのかの検証は必要だと思う。

座長

- ・PDCA サイクルで検証していくことは当然やると思うが、ここに書かれていないのは若干手落ちかなと感じる。他に何か。全体を通してでも。

委員

(特に無し)

座長

- ・全体的な話は今後事務局の方で考えていただく。なければ次の議題。議題2、今後のスケジュールについて事務局から説明を。

事務局

- ・本日の意見等を踏まえて整理した上で関係部署に記載内容などの確認を行い、議会への報告を経て原案としたものを11月下旬くらいからの1か月間パブリックコメントをかける予定。パブリックコメントをかける前に原案を委員の皆様へ届ける。来年1月下旬に3回目、最後の有識者懇談会を開催する予定。パブリックコメントの結果や計画の最終案についての報告をしたい。

座長

- ・よろしいか。

委員

(特に無し)

座長

- ・いろいろな意見が出たが、これが原案にはならないと思うので、原案作成の意見にかかる修正については、委員を招集するのも大変なので、座長一任でよろしいか。

委員

- ・はい。

委員

- ・議事録は送っていただけるか。

事務局

- ・はい。

座長

- ・議事録を作って送り、私の方で事務局と話した部分については原案のできたところで委員に再度送ってからパブリックコメントに行くということによろしいか。

事務局

- ・はい。

座長

・そういうことでよろしいでしょうか。

委員

・はい。

座長

・他になければ本日の議事は終了してよろしいか。

委員

・はい。

座長

・最後に事務局から何かあれば。

事務局

・改めて今後の予定だが、次回は来年1月下旬。開催時期近くなったら委員に連絡させていただく。

座長

本日の懇談会を以上で終了とする。

了